

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	高野裕治	所属	同志社大学
研究会等名称	表情の社会的機能とユニバーサリティ研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 6名 (うち認定心理士 0名) 非会員 7名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>表情は感情状態を表出するのみならず、その表出に伴い社会的機能を有しているということは、一般的に自明なようではあるが、このテーマについて実際にインタラクティブな環境での科学的探求は少ないと思われる。加えて、この機能は生物種を超えて普遍的なものと考えることが近年の心理学、生物学、薬学、神経科学などの自然科学の複数の分野の成果から、想定することができよう。</p> <p>そこで、本研究会では、表情の社会的機能に関するユニバーサリティに関して、どのレベルまで生物種を超えていけるのか、加えて、その時にどのような共通基盤を想定できるのかということテーマとした活動を実施した。</p> <p>まず初めに、2017年9月21日に日本心理学会にて、シンポジウム『生物種を超えてユニヴァーサルな「表情」：ヒト、イヌ、ラット、タコ・イカから考える』を開催した。会場は満員御礼となりまして、このテーマ設定の関心の高さを感じ、それぞれの発表やその質疑より、テーマ設定の妥当性や期待が伺えた。「生物種を超える」という部分について合意を得れたため、その共通基盤や固有メカニズム解明という新たなテーマも見えてきた。</p> <p>そこで、2018年1月21日に東京にて、本会の中心メンバーとともに、メカニズム解明に向けて薬学、神経科学の分野の非会員メンバーに参加を求めて研究会を実施した。メカニズム解明に向けて、ヒトとげっ歯類モデル動物に関しては、少なくとも翻訳可能な形でメカニズム解明するための行動実験について、議論することができた。次年度からは、げっ歯類動物モデル動物医学における行動実験系についての議論を深めていくことで本会の目的が達成していけるとおもわれた。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
表情の社会的機能とユニバーサリティ研究会				
研究集会開催日： 2018年 1月 21日(日)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	高野裕治	同志社大学	○	
2	中嶋智史	広島修道大学	○	
3	請園雅敏	RIKEN	○	
4	鈴木江津子	東京慈恵医科大学	○	
5	高橋伸彰	佛教大学	○	
6	廣中直行	LSIメディエンス薬理部		
7	村田藍子	早稲田大学		
8	阿部十也	福島県立医科大学		
9	樋口達大	福島県立医科大学		
10	笠原好之	東北大学医学部		
11	和田真	国立リハビリテーション研究所		
12	佐野良威	東京理科大学		
13	箕浦有希久	同志社大学	○	
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2018年 3月 28日

日本心理学会研究会

年度会計報告書

研究会名称 表情の社会的機能とユニバーサリティ研究会

研究会番号 17024

助成金額 4万円

年月日	項目	金額
2018年1月21日	研究会会場代	¥36,400
2018年3月24日	研究会データ資料保存用のメディア, 文房具	¥3,600

支出合計 ¥40,000